

項番	答申意見案	対応状況
1	○東京にも近いという地の利を生かし、非常にオープンな形でプロの投資家を招聘するなど、県が音頭を取ってベンチャーを誘致し、投資するファンドを作る必要がある。	○戦略1政策1に関する今後の施策・事業の参考意見として活用
3	○産業振興の政策の中に、新エネルギー関連の産業振興を図る考え方を取り入れるべきである。	○戦略1政策1に「次世代のエネルギーに関連した産業」を記載
4	○県の目標をはっきりと定め、関係するステークホルダーが、自分は何をすればいいかと自主的に考えられるようになることが必要である。 ○本県の産業として観光は重要であるが、環境保全と観光開発を合わせて考えていくべきであり、景観に配慮したインフラ整備や質の高いガイドの活用を考慮すべきである。 ○環境研究・環境教育や山岳レジャー・山岳スポーツの振興、美しい農村風景の保全などによる産業づくりが考えられる。 ○働き方改革の進め方として、ワークシェアが導入されれば、子育てや介護に追われる人たちも働きやすくなる。	○各政策において関係者の役割分担等を記載 ○戦略4政策3に「環境・経済・社会が好循環する持続可能な社会づくり」を記載 ○戦略4政策3に関する今後の施策・事業の参考意見として活用 ○戦略3政策3に関する今後の施策・事業の参考意見として活用
5	○即効性のある産業は観光であり、インターネットやマスコミなどを大いに活用して話題を作ることが大事である。 ○公平中立は行政の一番の基本であるが、時によっては一つのものに集中してPRをすることも大事である。 ○リニアの開通を見据えると、富士山と甲府盆地を結ぶ道路の新設が非常に重要である。	○戦略1政策2及び施策「魅力が伝わる情報発信」に記載 ○行財政改革の取組1の施策「戦略的広報実施に向けた体制の確立・推進」に記載 ○戦略5政策1の施策「県内各地域をつなぐ道路ネットワーク整備の推進」に記載
6	○一番大切なことはあるべき姿（目的）であり、「豊かさ」がキーワードになってくるが、豊かさの概念は、物の豊かさと心の豊かさの二つがあり、この両面をバランス良く追求していく必要がある。 ○外に向かっても発信していくことが重要で、中でも一番大事なことは存在感であり、ちゃんと伝わるような発信が重要である。 ○現状分析に必要な視点は現場の視点であり、様々な産業のポジショニング、アドバンテージ、ポテンシャルの視点を持つことが必要である。 ○産業分類のあり方については、観光産業、一次産業、伝統産業、障壁産業、イノベーション産業の5つに分類すると良い。 ○コンセプトの在り方において、役割、目的、プロセス、成果、レビューといった視点が重要である。 ○プロセスは、シンプルでストレートなものが良く、PDCAサイクルを回し、アクションスピードを上げ、当たり前のことをやり切ることが大事である。 ○行政と民間の役割分担を明確にして、お互いに追求すべきである。 ○絶対的価値づくりには、高付加価値化とブランディングが非常に重要であり、それには人材育成が必要となる。	○基本理念で「豊かさの実感」に向けてという項目で考え方を整理 ○行財政改革の取組1に施策「戦略的広報実施に向けた体制の確立・推進」を記載 ○戦略1に関する今後の施策・事業の参考意見として活用 ○戦略1の政策体系の考え方に反映 ○計画の推進の記載に反映 ○計画の推進の記載に反映 ○各政策において関係者の役割分担等を記載 ○取り組みの方向性において、「付加価値の高い産業の振興」、「本県の強みを生かし」、「次代を担う人材の育成・確保」と記載

項番	答申意見案	対応状況
7	<p>○目指すべき本県の姿は賛成であるが、いろんな意味で豊かさを実感できるためには、やはり稼がなければならない。</p> <p>○「攻めて稼ぐやまなし」の早期実現のためには、県外、国外の大マーケットを取り込み、さらに稼ぐサイクルを作り出すということが必要である。</p> <p>○県の総合計画の中にある具体的な成長戦略案はそれぞれ政策実現に必要なアクションであり、優先順位を決めてすぐにでも取り掛かるべきものである。</p> <p>○海外に市場を取っていく必要があるが、産業分野としては、機械電子などの製造業、富士山を中心とした観光ビジネス、ブランド化しているワインやフルーツなどがあげられる。</p> <p>○県内にとどまるのではなく、世界中に向けてPRするぐらいの環境を作ることも良いのではないか。</p>	<p>○基本理念で「豊かさの実感」に向けてという項目で考え方を整理。</p> <p>○戦略1に「県外さらには国外から外貨を獲得し、」等記載。</p> <p>○戦略1の下に5つの政策として整理。</p> <p>○戦略1の下に、牽引する産業、観光産業、農業、林業、地場産業等の5つの政策を設定。</p> <p>○観光については、戦略1政策2の施策「魅力が伝わる情報発信」に記載。</p>
8	<p>○世界中にオーバーツーリズムという問題がある。富士山というネームバリューは世界規模であるため、混雑を緩和する政策を考えることが重要である。</p> <p>○スポーツ振興に関して、ヴァンフォーレ甲府の存在価値を高めるべきで、ボールパーク化など、サッカーを見る人だけではなく、家族全員が楽しめるような施設を民間と共同して運営していく施策も考えられる。</p> <p>○健康寿命の延伸に合わせ、お金の寿命を伸ばすため、金融リテラシーを向上させるための取り組みを検討をしても良いのではないか。</p>	<p>○戦略1政策2に関する今後の施策・事業実施の参考意見として活用。富士山については、戦略4政策3に施策「世界遺産富士山の保全」を記載。</p> <p>○戦略2政策3及び戦略1政策1の施策「スポーツによる地域振興」に関する今後の施策・事業実施の参考意見として活用。</p> <p>○戦略4政策2や戦略5政策3に関する今後の施策・事業実施の参考意見として活用。</p>
9	<p>○山梨の強みをより強くする方法は何かを考えるべきである。逆に、人口減、高齢者増、低総生産高等などの弱みをどうすれば克服出来るかを考えるべきである。</p> <p>○グローバル化、デジタル化等、時代の潮流にどう向き合うか重要である。</p> <p>○メリハリの利いた優先順位付けが特に重要で、その後は、優先順位をもとに、PDCAをまわしていくステップになる。</p> <p>○人口対策は様々な工夫が必要であると同時に、「労働生産性」の向上も必須である。少し尖った勤務形態等を企業に導入し、新たな仕事への向き合い方を創出していくことも必要である。</p>	<p>○基本理念や人口ビジョンにおいて考え方を整理。</p> <p>○基本理念において考え方を整理。</p> <p>○計画の推進において、PDCAサイクル等を記載。</p> <p>○戦略3政策1に「誰もが個性や能力を発揮できる環境の整備」について記載。</p>

項番	答申意見案	対応状況
10	<p>○医療機器産業の集積は難易度が高いと考えるが、山梨大学医学部附属病院での臨床研究の充実と、優秀なドクターを集めること、医工連携がしやすい環境をつくることなどが重要である。</p> <p>○産業の集積には、様々なプレイヤーが、直接、交流・連携できる機会が重要で、スタートアップを生み育てる環境の整備も同時に進める必要がある。</p> <p>○山梨が優れている点は、リニア開通後、品川から25分という近さと安い土地、富士山など自然を感じることができることである。</p> <p>○医療介護の県外需要の取り込みについては、快適な長期滞在を可能とするなど、首都圏の有名大学付属病院へのツーリズムとの差別化がポイントとなる。</p> <p>○医療機器産業の集積にも、医療ツーリズムにも、リニアの活用は極めて重要であり、駅名もポイントとなる。</p> <p>○スポーツは今後大きな産業になると言われており、その中で、VFKは生かすべき一つのコンテンツである。</p>	<p>○戦略1政策1の施策「医療機器関連産業の集積」実施の参考意見として活用。</p> <p>○戦略1政策1に施策「起業（創業）支援の充実・強化」等を記載。</p> <p>○山梨県の可能性と課題、基本理念等において整理。</p> <p>○戦略1政策1の施策「医療・介護資源を活用した県外需要の取り込み」実施の参考意見として活用。</p> <p>○戦略1政策1の施策「リニア中央新幹線の開業に向けた取り組みの推進」実施の参考意見として活用。</p> <p>○戦略2政策3及び戦略1政策1の施策「スポーツによる地域振興」に関する今後の施策・事業実施の参考意見として活用。</p>
11	<p>○リニア中央新幹線の利便性の確保や既存の交通機関等との連携が必要である。</p> <p>○最新医療検査を可能とするなど、海外や県外からの医療需要取り込みのための仕組み作りが必要である。</p> <p>○企業誘致については、創意工夫をしながら充実していく必要がある。</p> <p>○桃の花の季節に、ツールド桃源郷や桃源郷マラソンを世界的なビッグ大会にしていくことも必要である。</p>	<p>○戦略1政策1の施策「リニア中央新幹線の開業に向けた取り組みの推進」や戦略5政策1の施策「JR中央線・身延線の利便性向上」の施策・事業実施の参考意見として活用。</p> <p>○戦略1政策1の施策「医療・介護資源を活用した県外需要の取り込み」実施の際の参考意見として活用。</p> <p>○戦略1政策1に施策「企業立地の促進」を記載。</p> <p>○戦略1政策1の施策「スポーツによる地域振興」実施の参考意見として活用。</p>
12	<p>○「攻めのやまなし成長戦略」の方向性として、それぞれの政策と目指す方向性の紐づけが必要であり、目指す状態を実現するための具体的な手段を示す必要がある。</p> <p>○「県内経済の活性化」においては中小企業の活性化が重要である。</p> <p>○山梨県の地の利を生かして、成長産業・分野を持つ中核企業の誘致を目指すなど、企業立地に向けて、企業の積極的な取り組みを支援することが必要である。</p> <p>○県産業の持続的な成長には、県内中小企業が積極的に成長分野に参入していく必要があるが、新製品や新技術の開発には設備投資を促すための仕組み・制度や、意欲ある企業の海外市場への展開に対する支援など必要である。</p> <p>○郡内と甲府盆地の間の利便性向上が急務である。</p>	<p>○戦略、政策、施策の体系により、総合計画において取り組む内容を整理。</p> <p>○戦略1政策5に「地域に密着した産業の強化」する旨を記載。</p> <p>○戦略1政策1の施策「企業立地の促進」実施の際の参考意見として活用。</p> <p>○戦略1政策5に施策「企業支援の充実」を記載。</p> <p>○戦略5政策1の施策「県内各地域をつなぐ道路ネットワーク整備の推進」に記載</p>

項番	答申意見案	対応状況
14	<p>○新たな産業創出には、それが生まれるべき風土が重要であることから、新たな価値を創造しようとする情熱を育むこと、地域の魅力を大切にしつつ新たな知を取り入れる寛容さや柔軟性、チャレンジできる場や機会、それを支援する人や組織があることが重要である。</p> <p>○「産業」や「雇用」を全体として捉えるだけでなく、一人ひとりがやりがいを持って「働く」という観点から捉えることが重要である。</p> <p>○地域の知の拠点を担う高等教育機関は、世代や分野の枠を超え、新たな価値を創造のための風土づくりを、県や地域ともに築いていく必要がある。</p>	<p>○戦略1政策1に「優れた技術の蓄積を生かしながら、新たな技術等を取り入れる」旨を記載。</p> <p>○戦略3政策1に「誰もが自分の持つ個性や能力を発揮し、やりがいを持って就労等が可能となる環境づくり」を記載。</p> <p>○戦略2に「求められる人材の変化に対応し、時代に合った人材の確保・育成を進める」旨を記載。</p>
16	<p>○気候変動による厳しい栽培環境に耐える耐候性技術や資材・品種の開発・普及、さらには、ICTを活用したスマート農業の普及により、危険回避を実現し、農業の収益性の向上を図ることが求められる。</p> <p>○農業者の所得の向上を図るためには、中国をはじめとしたアジア諸国などへの農作物の輸出が重要である。</p> <p>○豊かな農業・観光資源を総じて「山梨ブランド」としての提供を可能とすることで、より魅力ある山梨を県内外に発信することができる。</p> <p>○農業のように多くの人に関わっているという意味での基幹産業もあるという考え方を入れることで、山梨の本当の姿が出てくる。</p> <p>○果物が世界のトップであるように、先人が長い間培った農業へのプライドを持ち、これからの産業を育てていくという考え方が必要である。</p>	<p>○戦略1政策3で「スマート農業に取り組む」「収益性の向上を図る」旨を記載。</p> <p>○戦略1政策3で「アジア諸国を中心とした海外市場におけるブランド強化、販路拡大」について記載。</p> <p>○戦略1政策3に「ブランドの強化」、戦略1政策2に「地域資源の磨き上げ」に取り組む旨を記載。</p> <p>○本県における重要な産業として、観光産業、農業、林業について個別に政策を記載。</p> <p>○戦略1政策3として「農業の成長産業化」を整理。</p>
17	<p>○県民が山梨にあまり愛着を持っておらず、愛着度を高めるような施策が求められる。学んで働いて生活するのが人間の基本的な人生設計なので、働ける場所を広げることが、愛着にもつながる。</p>	<p>○取り組みの方向性に「魅力的な仕事を増やす」旨を記載。また、戦略3政策3に「郷土学習の推進を記載。</p>
20	<p>○行政の計画は細部のメニュー方式になってしまうので、分かりやすい柱に整理することが重要である。</p> <p>○成長には、人材をどう確保し、育てるかが最も重要である。</p> <p>○「山梨で元気になる」というような切り口があれば、全ての施策に通じることから、県職員をはじめ、全て人がその切り口で、自分の運動を展開できるよう目指して進めることができる。</p>	<p>○5つの戦略のもと17の政策に整理し、流れがわかるようにねらい等を記載。</p> <p>○戦略2に「将来にわたって山梨が発展していくためには、未来を担う子どもたちが、地域で活躍する人材となる必要がある」旨を記載。</p> <p>○豊かさの実感に向けてを追記し、豊かさに対するイメージを共有。</p>

項番	答申意見案	対応状況
22	<p>○医療機器産業の集積について、産業の「礎」、技術と資本の連携、技術者の確保、機器の輸出・搬送などの視点が重要である。</p> <p>○交通網については、リニアや中央線などの利便性確保、中央道の渋滞緩和、バス路線などの身近な足の確保、富士山登山鉄道の検討などが重要である。</p> <p>○果樹や木材等については、担い手の育成や、質の維持・向上と量の確保の両立、交通網を含めた輸出・搬送が重要である。</p> <p>○観光関連については、観光資源として、高原地区、サイクリング、祭などがあり、甲府駅前などの各商店街の活性化やヴァンフォーレ以外の集客コンテンツなどが課題である。</p>	<p>○戦略1政策1の施策「医療機器関連産業の集積」実施の参考意見として活用。</p> <p>○戦略1政策1の施策「リニア中央新幹線の開業に向けた取り組みの推進」や戦略5政策1の各施策を記載。</p> <p>○戦略1政策3及び政策4、戦略2政策2の各施策を記載。</p> <p>○戦略1政策2に施策「サイクル王国やまなしの実現」を記載。その他、今後の施策・事業実施の参考意見と活用。</p>
23	<p>○中学、高校ぐらいから、県内にある世界的に有名な企業を紹介することにより、山梨県はものづくりが非常に盛んだということを周知することが大切である。</p>	<p>○戦略2政策2に「山梨で働く魅力を周知する」旨について記載。</p>
24	<p>○強みを生かし、重点的に打つ施策はもっと絞り込むべきである。</p> <p>○価値判断の基準をもう少し先鋭化するため、人口減少や少子高齢化の文脈で、団塊世代が75歳を超える2025年までの必達の対策に対して、何に着手すべきかという観点で優先順を整理するのが良い。</p>	<p>○戦略、政策、施策の体系で整理し、なぜ取り組むのかがわかるようにねらい等を記載。</p> <p>○計画の推進に「まち・ひと・しごと創生総合戦略としての取り組み」を記載。</p>
25	<p>○富士山以外の観光資源のPR活動に力を入れるべきであり、全国規模の大会誘致、スポーツ施設インフラ整備、基幹交通拠点付近への大型公共バンケットホールの建設、富裕層等を対象としたハイクラスホテル誘致などが考えられる。</p> <p>○観光PRの強化が必要である。</p> <p>○観光産業の高付加価値化には、観光協会組織の強化や企業との連携、サービス業に従事する社員のスキルアップと有能な人財の確保等が必要である。</p> <p>○日本における医療機器製造産業のシリコンバレーとなるべく、グローバルな企業を含め医療機器製造にとって優秀な企業を誘致すべきである。</p> <p>○健康寿命が全国1位であることを生かし、Made in やまなしのヘルスケア・健康寿命延伸ビジネスを構築する必要がある。</p> <p>○先進医療が受けられる体制づくりが必要である。</p> <p>○医療ツーリズム戦略として、県外、海外の方をターゲットとし、山梨県の観光と併せて、人間ドックを県内の医療機関で受診していただくことも有効である。</p>	<p>○戦略1政策2に「山梨県の強みを生かした地域資源の磨き上げ」を記載。また、今後の施策・事業実施の参考意見として活用。</p> <p>○戦略1政策2に施策「魅力が伝わる情報発信」を記載。</p> <p>○戦略1政策2に施策「観光産業の生産性向上等の推進」を記載。</p> <p>○戦略1政策1の施策「医療機器関連産業の集積」実施の参考意見として活用。</p> <p>○戦略1政策1に「医療や健康に関連した産業の育成を図る」旨を記載。</p> <p>○戦略4政策1に施策「医療機能の分化・連携等の推進」を記載。</p> <p>○戦略1政策1の施策「医療・介護資源を活用した県外需要の取り込み」実施の参考意見として活用。</p>
26	<p>○現状分析に関する視点として、日本全体に共通するような外部環境・課題と、多くの地方に共通する外部環境・課題、山梨県特有の外部環境・課題と類型化することが有用ではないか。</p> <p>○従来からの取り組みについて、これまでの成果と残された課題の分析を行い、今後の政策の方向性を整理する方法もある。</p>	<p>○山梨県の可能性と課題の整理において、本県特有のものと全国共通のものという視点を含めて整理。</p> <p>○本県の現状分析から課題等を抽出し、取り組みの方向性を整理。</p>

項番	答申意見案	対応状況
27	<p>○交通の利便性の向上は非常に重要であり、交通基盤を整備していくことは攻めの山梨に効いてくるので、計画に位置づけるのは重要である。</p> <p>○富士山登山鉄道の整備などにあたっては、きちんと効果と影響の分析を行った上で、計画していくことが重要である。</p> <p>○MICEという、新しい観光が登場しており、産業間での交流と観光も絡めることで交流が深まり、情報が共有化されて、山梨県にも投資しようとするということも期待できる。</p>	<p>○戦略5政策1に産業・生活を支える交通インフラの充実を記載。</p> <p>○戦略4政策3の施策「富士山登山鉄道構想の検討」事業実施の参考意見として活用。</p> <p>○戦略1政策2の施策・事業実施の参考意見として活用。</p>